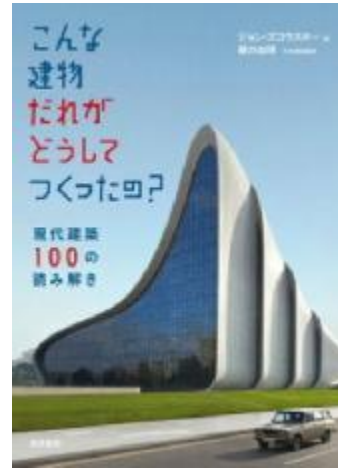


変わった（独創的）建物



表紙

「こんな建物だれがどうしてつくったの？※」という本を見ました。

現代建築 100の読み解きというタイトルで掲載されています。

ジャンルを5つに分け1章 幾何学の勝利、2章 宇宙時代、3章 主張の表明、4章 摩天楼という様式5章 過去へのオマージュと分類しています。

これを見ると本当に実に変わった建物が世界に散在しているなと拝見しました。

その**1章**には、ミースのレイクショアドライブ・アパートメントで鉄とガラスで設計した高層ビルの基本となった。フランク・ロイド・ライトのグッケンハイム美術館でラセン状のスロープが特徴。ルイス・カーンのバングラデッシュ国会議事堂など。

2章は、エーロ・サーリネンのゲートウェイ・アーチ。バックミンスター・フラーの球体状のモントリオール万博アメリカ館。ニーマイアーのブラジリア大聖堂。ザハのガラス繊維補強コンクリートで作ったアリエフ・センター。ノーマン・フォスターによる商用宇宙港としてのスペースポート・アメリカ。

3章は、ウッツォンのシドニーオペラハウス。ヘルツォーク&ド・ムローンのツバメの巣と呼ばれる北京国家体育館。

4章は、シーザー・ペリのクアラルンプールにあるペトロナス・ツインタワー。SOM設計のドバイに建つ163階で多目的ビルのブルジュ・ハリファ。

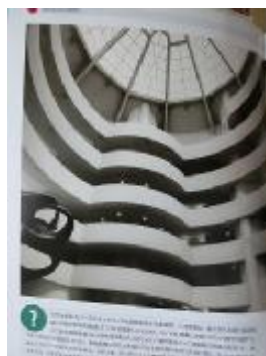
5章、レフ・ルードネフが高層の建物・モスクワ大学。バジル・スペンスは、イギリスにコヴェンドトリー大聖堂など、勝手にセレクトしてみました。

近年の作品は、有機的曲線・面で構成された建物・独創的設計もコンピューターが出現したことにより自由奔放な建物が可能になっています。



①

ミース



ライト



カーン



②

サーリネン



ザハ



フォスター



③

ウッツオン



ヘルツォーク&ド・ムロン



④

ペリ



SOM



⑤

ルードネフ



バジル・スペンス

※ジョン・ズコウスキー著藤井由理監修：発行所・東京美術

なお、上記の写真は、書籍の各ページに掲載された建物の写真をカメラで撮ったものです。